

飛んでスマート・クルーズ・アカデミー ロサンゼルス発着 2026年2月15-22日 @ノルウェージャンプリス



コースとスケジュール

日	ランドツアーとクルーズ寄港地	入港	出港	予約済み
日	ロサンゼルス、カリフォルニア州	---	4:00 PM	1
月	終日航海	---	---	0
火	終日航海	---	---	0
水	プエルトバジャルタ、メキシコ	7:00 AM	6:00 PM	0
木	マサトラン、メキシコ	8:00 AM	6:00 PM	0
金	カボサンルーカス、メキシコ	6:30 AM	2:00 PM	1
土	終日航海	---	---	0
日	カリフォルニア州ロサンゼルス（飛行機の搭乗地）	7:00 AM	---	0



セキュリティ上の理由から、出航の2時間前までにご乗船いただく必要があります。着岸から下船開始までに通常2時間ほどかかります。航程は予告なしに随時変更される場合があります。

学生感想

特に満足したポイントを3つ.....	3
海外発着クルーズを申し込んだきっかけ。申し込むかどうかを考えていたときのクルーズイメージ.....	4
クルーズの概要を知ったときの感想.....	6
申し込み後、乗船日前夜に考えたこと.....	7
LA 港での視察で学んだこと、感じたこと。.....	9
乗船直後の感想.....	12
クルーズ船としての船内施設（ハード面）全体の感想.....	14
"船内サービス(ソフト) の感想.....	16
"船内の SHOW やエンターテイメントの感想.....	20
"船内の施設での体験に関する感想.....	21
クルーとのディスカッションで学んだこと感じたこと.....	24
乗船港(LA 港) での感想（港・ターミナルの施設評価、乗船時対応、観光地（LA)の魅力など）.....	25
寄港地(プエルトバジャルタ) での感想.....	27
寄港地(マサトラン) での感想.....	29
寄港地(カボサンルーカス) での感想.....	31
スマート・クルーズ・アカデミー企画全般についての感想と今後の要望.....	33
地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割（メキシコの場合）についての感想.....	35
クルーズを通じた若い世代の国際交流・異文化理解についての感想.....	37
クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにむけての若い世代からの視点).....	39
クルーズ全般への感想.....	41

学生アンケート

特に満足したポイントを3つ

1. ・多様なレストランでの食事、・オブザベーションラウンジでの眺めと、ほとんどの時間で提供されている軽食、・カーレースのできるスピードウェイでの興奮する船上体験
2. "1. 純粋なプライベートのクルーズに近い体験、2. 初の外国港発着クルーズ体験、3. 初の連続日の洋上クルーズ体験"
3. "・寄港日と航海日がバランスよくあり、船内のコンテンツを楽しめたが飽きもしなかったこと、・無料のレストランが充実しており、飽きることがなかったこと・クルーズの本場アメリカのクルーズに乗船し、アメリカ人のクルーズの楽しみ方を知れたこと"
4. "・食事、・アクティビティ、・ラウンジ"
5. 今回のクルーズは、いつもとは変わり、アメリカ・メキシコの寄港地でした。初めて行くメキシコ、初めて乗るノルウェイジャンの船にのることができて、すべてが新鮮だった点である。その中でも満足したポイントは、まず一つが、寄港地がアメリカ・メキシコで普段旅行ではあまり行くことのできないメキシコに行くことができた点である。二つ目が、船の中にあるスカイラウンジである。開放的な空間で景色を一望でき、ゆったりといつでもコーヒーや紅茶を飲むことができたのは、かなりリラックスできた。3つ目は、レストランの店舗の多さとおいしさである。4店舗ほど有料レストランで夕食を食べたが、どのレストランも味が濃過ぎずおいしかった。
6. ・個人旅行で行くにはなかなかハードルの高そうなメキシコの観光を大いに楽しめたこと。・寄港地での観光や船内での食事、イベントなどが充実していて、ほとんど退屈することがなかったこと。・同行した先生や学生との交流が非常に楽しいものとなったこと。
7. レストラン、特徴的なスライダー、オブザベーションラウンジ
8. "・船内の有料レストランが美味しかった。・メキシコという個人では行きづらい国に複数都市訪れることができた。・終日航海が複数日あり、船内でゆったりと過ごすことができた。"
9. "・自力では治安的にもハードルが高いメキシコに行けたこと、・人数が少な

いからこそ密な時間を過ごせたこと、・LA 港見学などクルーズ外の時間も充実していたこと"

10. 他大学の人も仲良くなれた、メキシコに行けた、ゆっくり過ごせた
11. ①船内の食事の充実さ:メインダイニング3ヶ所、ビュッフェ、24時間空いている「The Local」と種類も豊富で時間や服装をあまり考えず自由に食事をできるのがすごく快適だった。またスペシャリティダイニング(フレンチ、イタリアン、ステーキ、鉄板焼き)も特別感があり、料理もすべて美味しく魅力的だった。②ObservationLounge:展望ラウンジの居心地がすごく良かった。日中は船から景色が綺麗に見え、紅茶やコーヒーなどの飲み物も自由に飲食できる点も魅力で、歓談スペースとしてクルーズ乗船中多くの時間を過ごさせていただいた。③船内エンターテイメントの満足度:海の上でのゴーカートは本格的で他の船ではなかなかできない貴重な体験であると思う。個人的に洋楽が好きなので、ICONS などのステージショーはすごく楽しめ、マジックショーも観客を巻き込む形の演出で面白かった。
12. ①船内のレストランの種類が豊富で 7 日間いても飽きなかった②リカルドのお話でクルーズについての理解を深めることが出来た、Heven の見学ができた。将来は Heven に泊まれるような財力でありたいと思った③cabo の際に、クルーズ→小型の船に乗り換えて移動する経験ができた。これは珍しい事であると橋本先生からお聞きし、特別感を感じた

海外発着クルーズを申し込んだきっかけ。申し込むかどうかを考えていたときのクルーズイメージ

1. 飛んでクルーズは、シンガポール発着から始まり、昨年 202502 のシドニー発着に続き、いよいよアメリカ大陸に上陸。円安でもあり、費用が気になるが、これまでにない体験ができることから、企画することにした。
2. 海外発着のクルーズを体験できる点に大きな魅力を感じた。また港湾見学で学べる機会もあり、単なる観光旅行ではなく総合価値が高いと考えて参加を決めた。「本場」の客船運営や寄港地観光の実態を知りたいという関心もあった。
3. メキシコはなかなか個人で行くのは難しそうなので、旅慣れた人と行ってみたかった。一方で前月と次月にもクルーズのお誘いがあり、また当該クルーズが 7 泊 8 日+前後のフライで移動時間が長いことも分かっており、時間の都合をつけるのが大変だとも感じていた。
4. "海外発着であり、メキシコクルーズに関心があった。そして、ノルウェージャン

ということもこれまでに乗船機会がなかったため、乗船してみたかった。LA発着であったため、海外の方の船での過ごし方や、寄港地をどう回るのか、港の状況にも関心があった。”

5. 申し込んだきっかけはメキシコとアメリカに行くことができるクルーズだったことと初めて乗る船の会社だったことだ。メキシコには前々からもっと訪れたいという気持ちがあったが、なかなか旅行でいけるところではなかったのでクルーズで行くことができると知って行くことにした。また、クルーズ船も昔からあるプリンセスやロイヤルカリビアンではなくノルウェイジャンだったため、興味がわいたのが一番の理由である。
6. 就職活動を始める前という比較的スケジュール的に余裕のある時期に、一度日本から大きく離れた場所への海外旅行をしてみたいと思っていた中で、ゼミ関係者同士という安心できる人同士で旅行できる機会が得られるのはありがたいと感じたため。以前乗った東京台湾間でのクルーズに乗ったときが楽しく、また再び乗りたいと感じたため。
7. 今回で5回目のクルーズでクルーズ自体への懸念はなかったのと卒業前ということもあり、最後のクルーズとして申し込んだ。ゼミとして毎年春には海外クルーズに行っているのが抵抗はなく申し込めた。迷うことはなかった。
8. 最終学年であるため、卒業旅行として、親しい友人達と特別な旅行をしたかったため、また、行先がアメリカ・メキシコであり、魅力的に感じたため、参加を決定した。海外発着クルーズは初めてでは無かったこともあり、申し込むかどうか迷うことはなかった。
9. 卒業旅行であるとともに、踏み込んだことのない土地にいけるという興味から。社会人になればこれほどの時間は取れないので経験しておきたかった。
10. 今回クルーズに乗るのは2回目で、前は日本発台湾着だったので海外発着であることには不安はなかったのですが、海外発ということは少し不安に感じていました。でも、海外慣れしている先輩が多くいることや先生方も一緒ということもあり参加することに決めました。
11. これまでクルーズに乗船した回数は1回で、国内の寄港が多い比較的近場のクルーズだったため、海外発着というところが個人的に少しハードルが高く、悩んだポイントではあった。ただ今年から社会人になるため今後そのような機会に巡り合えるかというのも考えた上でやはりすごく貴重な機会だと感じ、申し込みたいという気持ちがかかなり大きかった。
12. 橋本先生からの案内&一緒に行く人がいたから。これまでもクルーズに

参加する機会があったが、寄港地に興味がなかった。今回のメキシコもそこまで興味はなかったが、滅多に行けないし、せっかくの機会に行ってみるのもありだなと思い、参加を決めた。クルーズってそんなに楽しいものなのか?と思いながら、これも経験と思い参加を決めた。

クルーズの概要を知ったときの感想

1. アメリカのロサンゼルスという大都市から始まり、メキシコのリゾート地3か所をめぐるという胸躍るクルーズ。円安ということもあるが、ZIPAIRのおかげでフライトも手ごろで、クルーズの料金も手の届く範囲だったため、実現した。
2. ロサンゼルス発着でメキシコの複数港を巡る行程を知り、非常に充実したプログラムであると感じた。大型クルーズ船で数日間生活しながら寄港地を訪れるという旅行形態は、日本ではまだ一般的ではないため、新しい経験になると考えた。また港湾視察やディスカッションが含まれている点も、単なる観光ではなく学びの機会として魅力的であった。
3. ノルウェージャン社のクルーズに乗ってみたことがなく、初めての船社に乗ってみたいという思いが強かった。2018年建造で比較的新しい船であることも魅力であった。また、それほど高額な料金ではなかったため、この円安とインフレ時代にカジュアル船がどこまでコストパフォーマンスを追求できているのかを自ら確認してみたいと感じた。
4. ノルウェージャンクルーズは、フリースタイルクルージングであり、好きな時間にレストランを利用できることや、ドレスコードも比較的自由であることから、どのようなクルーズなのか楽しみ。メキシコのカボ・サン・ルーカス、マサトラン、プエルト・バジャルタと複数の都市を訪れることができるためどのような違いがあるかも含めて楽しみである。
5. クルーズの概要を知ったときの最初の感想は、クルーズ船の期間がいつもよりも長く、海の日も3日あることにワクワクした。今まで乗ったクルーズ船は海の日はありません、毎日が寄港地で忙しかったが、海の日があることでクルーズ船内も存分にたのしめることに楽しみだった。また、アメリカ発着だったため、アメリカも観光できるとおもいとてもワクワクした。
6. 普通の個人旅行では観光するのが大変そうなメキシコを、お手軽かつ効率的に巡ることのできる方法があるとわかり、とても良いコースであるように感

じた。また、船にゴーカートがあるなど今までのクルーズでは聞いたことのないような要素もあるとわかり、なお楽しみが増幅したように思われた。そして、今回は今までにないアメリカ発着クルーズということで、雰囲気などのように変化するのも気になった。

- 7.概要を知ったのは随分前なので、あまり覚えていないが、ノルウェージャンクルーズに初めて乗れることは楽しみだった。今までとの船会社との違いを観察しようと思った。また、初めてのアメリカだったので、その点でも楽しみだった。
- 8.アメリカ・メキシコともに初めて訪れる国であったため、興味を持った。ロサンゼルス発着であるということ自体は特段魅力的ではなかったが、メキシコを巡るクルーズであるということがとても魅力的であった。また、過去に乗船したことがない会社の船だったことも選択の理由となった。
- 9.どのクルーズにするかの選択から今回関わる事ができたが、乗ったことのない船の今回のコースか、ガルベストーン発着のコースかで迷った。メキシコのリゾート地だけの前者より後者の文明遺跡も巡るコースに魅力を感じたが、時間や発着地的には前者が現実的だと考えた。
- 10.前回のクルーズでは寄港地がなかったので寄港地があることが嬉しかったです。船内にゴーカートがあることも楽しみでした。寄港地がメキシコで三つあることをとても楽しみにしていました。治安的にも一人ではなかなか立ち寄れない場所に寄港地として立ち寄れることがいいなと思いました。
- 11.過去に乗船したクルーズと比較して規模感も全く違っていて魅力的だった。特にこれまでアメリカメキシコに渡航した経験もなく、メキシコに旅行で訪れる経験はなかなかないと感じたため、ロサンゼルス発着で寄港地観光でメキシコを周遊できるという点に強く惹かれ、学生最後の旅行としてぜひ行きたいと感じた。
- 12.そこまで興味がなく、なんとなく応募したため、メキシコのどこに行くかもあまり意識していなかった。とりあえずあまり自分から積極的に行かないであろうメキシコに行けることに価値は感じていた。船内の内容もクルーズ経験がないためよくわからなかったが、赤井先生のおかげで安く行けることが非常に魅力的に感じた。

申し込み後、乗船日前夜に考えたこと

- 1.日本は真冬であるが、南カリフォルニアは、初夏。持ち物は少し悩んだが、暑

ければ、脱げば良いので、気楽であった。暖かいところへのクルーズは、その意味でも気分が前向きになる。また、これまでの飛んでクルーズよりも、治安が気になる国でもあり、団体行動で協力し合うことで、治安やミスのリスクを避けるように心がけよう。

2. 欧米人（北米人）が多くを占めるであろう船内の雰囲気は楽しみだ。メキシコの寄港地観光についても、日本とは異なる文化や街並みを体験できるのではないかと期待感が高い。
3. 10日間も日本を離れることと、気温が日本と異なる（日本より暖かい）ことが予想されたので衣服の準備が面倒だった。また、クルーズに乗船する前にフライトで10時間もエコノミークラスに乗るのが憂鬱であった。
4. 船内の多彩な施設やエンターテインメントも大きな楽しみである。シアターでのショーや音楽イベントにどのようなものがあるのか、そして、事前に予約した有料のレストランの他、たくさんあるレストランでの食事に大きな期待がある。寄港地での観光も大きな楽しみである。
5. 今回の乗船の期待は、アメリカ発着であることから日本人があまり乗っておらず、アメリカ人ばかりでかなり船内の雰囲気が変わるのではないかと期待していた。また、多くのレストランに乗船した後に、行くことやメキシコの寄港地で3か所もいけると知り、かなり新鮮な気持ちでクルーズ船にのることができると考えていた。
6. 1週間を超える海外旅行がそもそも初であったので、慣れない環境に長時間滞在することに対する不安感は少し感じていた。また、治安面での懸念が見られる地域に滞在する機会があったため、事前に情報収集など対策を行っていたとはいえ、犯罪に巻き込まれないかなどに関する不安は少しあった。一方で景色が非常にきれいであったり、おいしい食事がたくさんあるなど肯定的イメージも多かったため、そういう面での期待も大きかった。
7. 初めての船会社だったので、どのような点で他社と優劣があるか見れるのが楽しみだった。特に食事に対しての期待をしていた。ご飯が美味しければ気分も良くなるので。アメリカからの乗船だったので、アメリカ入国はビビっていた。
8. 初めて訪れる国であり、特にロサンゼルス・メキシコということで、分からないことが多く、特に治安の面で少し不安を感じていた。海外発着クルーズ自体は乗船経験があったため、久しぶりのクルーズへの参加に対して、過去の記憶を思い出しつつ、期待を膨らませた。

9. 乗船経験はあるものの、アジア以外で初のクルーズだったので新鮮な気持ちと共に、高揚する気持ちもあった。
10. 前回のクルーズとは違い初対面の人が多かったので、これから一週間ほどの共同生活をうまく過ごせるかが心配でした。でも、前回とは違う船に乗れることがとても楽しみでした。どんな船のつくりでどんな雰囲気の人に乗っているのか気になっていました。
11. クルーズ船内の雰囲気やアクティビティ、寄港地観光への期待が大きかった。また海外発着のため、一緒にクルーズに乗船する人もアメリカやカナダなど英語圏の人が多いのかなと想像しており、日常的に英語に触れられる環境や海外の人に囲まれる環境も楽しみでワクワクしていた。不安はほとんどなかったが、強いて言えばメキシコの治安が少し心配だった。
12. 船の中での生活はどんなものなのか、どのくらい広くて、どのくらいのアクティビティがあって、どのくらいの人に乗っていて、ごはんはどんなものがあるのか期待があった。初めての経験にワクワクする感情。一方でかなりの大金を払っているため、満足の行く体験が得られるのかが不安だった。ロサンゼルスでの前泊後泊もすると決めたものの、費用がかさむ為やめとけば良かったとも思った。

LA 港での視察で学んだこと、感じたこと。

1. LA 港は、隣にあるロングビーチ港を加えると、日本の港全体の貨物を取り扱うほどの規模の港である。現場視察では、圧倒的なスケールを体験でき。また、意見交換を通じて、効率化の取り組み、環境への取り組みなどについて、学ぶことができた。日曜日にもかかわらず、対応していただいた港の皆様には心から感謝します。
2. "ロサンゼルス港の視察では、まず港湾の規模と取扱貨物量の大きさに強い印象を受けた。日米は経済・安全保障・貿易など多くの分野で相互互恵的な関係を築いているが、実際の港湾物流の規模を見ると、その荷役量は文字通り桁違いであり、世界的な物流拠点としての役割の大きさを実感した。こうした規模の違いを念頭に置かずに「相互に必要な存在」という抽象的な認識だけで交渉や議論を行えば、現実を十分に捉えない議論になりかねないと感じた。また、西海岸を代表する港の一つである同港において、開発責任者 (Director of Development) を女性が務めていた点も印象的であった。巨大港湾の開発戦略を担う立場に女性が就いていることは、米国

では当然なことかも知れないが、最近日本でも散見される多様性という観点から見ても印象的であり、港湾行政のあり方を考える上でも示唆的であると感じた。今回の視察を通じて、港湾の歴史的背景や実際の取扱規模などの事実を正確に理解することが、国際関係や経済活動を考える上で極めて重要であることを改めて認識した。"

- 3.前半の説明もロサンゼルス航路や取扱貨物、地域開発や環境保護など様々な視点からの知識を得られた。特に環境問題への配慮に説明の重点が置かれていたのはさすが先進国だと感じた(トランプ政権でなければより港湾のCO2対策が進んでいたのでは)。また、後半の視察があれほど充実しているとは予想していなかった。我々が乗船するクルーズ船を乗船前から海上で見学できるというサプライズだけでなく、巨大なガントリークレーンと貨物船を大量に見学でき、太平洋航路におけるロサンゼルス港の役割の重要性が理解できた。また説明して下さった現地駐在日本人の私見を聞くのも興味深く、中国の脅威を見せつけられた。
- 4.ロサンゼルス港は世界有数の貿易港として知られているが、クルーズの拠点としても重要な役割を果たしており、物流・観光・都市経済を支える複合的なインフラとして機能していることを実感した。効率的な運営体制と充実した施設により、多くの人やモノの流れを支えている点は非常に印象的であり、港湾の持つ役割の大きさとその重要性について改めて認識する機会となった。
- 5.LA 港で学んだことは、LA 港はサステナビリティのために環境に配慮した政策を数多く実施していることがよくわかった。また、LA 港が環境対策を行い、港を発展させたことが LA が急激に成長したきっかけであることがよくわかりとても興味深かった。また、環境対策を行う上で、各貿易会社と地域住民と協力し合うことが必要不可欠であることと実感した。また、トランプの環境規制排除の流れがあっても、州の自治権が強い分、その流れに逆らうという話を聞いて、アメリカ特有の国のあり方を再認識させられた。
- 6.まず、東京や神戸など今までに訪問歴のある日本の港と比較して、規模がとても大きいように感じた。特に日本ではなかなか見ないようなサイズのコンテナ船が多くおり、圧巻であると感じた。また、海を介した各国との物流のみならず、陸上でのアメリカの各都市との物流においても LA 港は重要な立ち位置を占めているというのは新たな知見となった。さらに環境政策においても、日本においては協力を要請する方針のものも多い中、アメリカにおいては協力しなかった場合に制約を課すことで半強制的に協力を求めるよ

うな政策も一定数あるとわかり、そこに国による考え方の違いを感じられて勉強になった。

7. ロサンゼルス港ではたくさんの学びをさせていただいた。自分自身が海運会社に就職するというのもあるが、港湾に対しては興味があったので、海外の港湾関係者の方々とは話をできるというのはとても良い経験だった。日米の港湾運営に対しての姿勢の違いからロサンゼルスの歴史的経緯まで事細かに説明してもらい、これからの役に立つお話をたくさんいただいた。また、コンテナ船などを間近に見さしてもらうことができとても大迫力だった。
8. プレゼンテーションでは LA 港が果たす役割や取り組みについて概要を学び、港内クルーズで実際に目で見ることでその規模を含めて実感できた。プレゼンテーションでは特に、港内での速度制限などの環境対策について関心を持った。LA 港周辺での環境問題の歴史的・政治的経緯を知ることで、そのような環境対策が重要な意味を持つことを学んだが、一方でそれは LA 港の競争力の強さだからこそ可能なのだろうとも感じた。港内クルーズにおいては、Masa さんに解説していただき、港湾を端緒に様々な点について日米の相違点を学ぶことができた。特に日系移民の歴史的経緯についての解説は記憶に残った。
9. LA 港で最も印象に残ったのは、国からの補助金を貰わずに運営できていることだ。環境政策に関してもそれが反映されていて、現トランプ政権の反脱炭素政策とは逆行する形で取り組んでいる。補助がないからこそ将来の LA 港にとって何が 1 番良いかを見据えた計画を策定することができるのだと感じた。
10. 港を動かすことにとってもたくさんの方が関わっていることは想像できていたのですが、実際に港のオフィスをみたり働いている人の話を聞いて改めてすごいなと思いました。港は一つの政府のようだと言っていたのがとても印象に残っていて本当にその通りだなと思いました。また環境保全のための活動も幅広く行なっていることに関心しました。昔は LA 港のあたりも公害被害があったとききましたが、今はそんな面影もなく驚きました。
11. 実は私自身、就職活動時に国際物流業界に強い関心を抱いていたため、今回、北米最大のコンテナ取扱量を誇るロサンゼルス港を視察し、世界の貿易を支える最前線の現場を実際に見ることができたことは、非常に意義深い経験となった。ロサンゼルス港の圧倒的なスケールのみならず、環境対策への先進的な取り組みについてマリセラ氏や森本氏から伺った話が特に印象に残っている。世界有数の港湾として経済活動を牽引する一方で、

港湾からの汚染物質排出量ゼロに向けた計画を策定するなど、持続可能性を重視した港湾運営を積極的に推進している点に強い感銘を受け、大きな学びになった。

12. 英語が堪能ではなく、正直あまり理解は出来なかったが、LA 港はとても規模の大きな港でアメリカにとって非常に重要な役割を果たしていることを知ることができた。また、環境問題の解決にも力を入れているところが良いと思った。マリセラさんが非常に好意的で嬉しかった。朝食を用意してくれたが、食べながら話を聞いてもいいのかどうか分からず(日本だと失礼にあたると思う)、食べていいのかわからなかった。マサさんの解説がとてもわかりやすく、日本語での説明は非常にありがたかった。その後の乗船が一番印象的で勉強になった。マサさんの解説では、「日本人はよく働く」と海外の方に思ってもらえるのは、アメリカで働いていた日本人が真面目に頑張っていたからだと言った。ロサンゼルスで働いていた日本人は、やっとなロサンゼルスで自分たちの生活圏を作れたタイミングで真珠湾攻撃が始まり、家も何もかも没収され奴隷として扱われたにも関わらず、文句一つ言わず懸命に働き続けた。だから日本人に良い印象を今もなお持ってくれるのは、そういう人たちの努力があったからであることを忘れてはいけない。そういう文化を学ばなければならない。このお話が非常に心に響いた。先人の努力で日本人に対する印象が良くなっていることに感謝の心を持たなければならないと思った。また、LA 港のセキュリティの高さについてのお話もあった。アメリカは運ばれる前に入念にコンテナを点検し、運ばれてきてからもランダムに検査をしているそうだ。日本でもそのように港の強化をすべき。そして、もっと港の国としてアジア、そして世界をまとめるべきだとのお話も興味深かった。

乗船直後の感想

1. 乗船直後のイメージとしては、洗練されたおしゃれな内装の船であるということ。乗客のほとんどがアメリカ人であり、綺麗なホテルでカジュアルに過ごせるという雰囲気。船は2018年の建造であり、まだ8年目ということもあり、また、2025年にも改装されたということで、古さは感じない。
2. オブザーベーションラウンジなどのパブリックスペースも非常に開放的で、多くの乗客が快適に過ごせる設計になっていると感じた。また船員の対応も丁寧で、乗客が安心して滞在できる雰囲気が作られている点が印象的だ。

3. MSC社と異なり、大きな吹き抜けがない。またラテンアメリカ系のクルーが多いのかと思いきや、最大派閥はここでもやはりフィリピン人で、フィリピンの人材輸出国としての存在感に感服した。また西海岸のスクールホリデー期間で10代後半のティーンが多く、buffetもアイスクリームの種類を増やすなど対応しているとのことだ。
4. 船内全体のインテリアも、伝統的な豪華客船というよりは、現代的でスタイリッシュなデザインで統一されており、リゾートホテルのような雰囲気がある。気軽に過ごせそうである。乗船時には多くのクルーが笑顔で乗客を迎えており、案内や声掛けもとても丁寧で親しみやすい。
5. 乗船直後の感想としては、部屋がちょうどいい大きさで、ご飯がどこで食べてもおいしい。また、船内のいたるところにおいしそうなレストランと芸術品があり、とても豪華だと感じた。これまで乗船した船との雰囲気の違いは、MSCなどのふき向けの大ホールみたいなどはあまり広くないという印象を抱いている。
6. 船員さんたちの雰囲気などは以前のMSCクルーズの時とそこまで差を感じないが、アメリカでのクルーズであるにも関わらずインドや東南アジア諸国など出身の船員さんが多いということは意外であるように思われる。前回のクルーズは満室であったこともあってかどことなく人の密度が高く感じられたが、今回はそこまで密度を感じていないように思われる。
7. レストランが多いという印象。メインフロアの天井はそこまで高くて開放的というわけではないが、たくさんショップはある。船員さんは今まで乗った船と変わらず陽気な人が多い。ロサンゼルス発だったので、外の気温は少し寒い。プールには入れない。
8. 乗船して一番に、非常時の集合場所に一度行かないといけませんが、まだ位置が分からない。内装など周りの様子を見る余裕はまだあまりないが、過去に乗ったクルーズ船と比較すると、特別に豪華な内装ではない。集合場所はカジノの隣だったが、やはりカジノを見るとクルーズ船だという実感がある。その後階を移動して部屋に向かうが、エレベーターが到着するのが遅い。
9. アメリカ人の文化なのか、乗船早々有料のドリンクを購入して片手に歩いている人が他の船より圧倒的に多い。カジノにも乗船早々多くの人が集まっており、消費意欲の高さに驚く。
10. オフィスのブースがそれぞれ個人スペースのようになっていて働きやすそうだ。職員の方はどなたもとても親切で驚いている。話を聞かせてくれるだけ

ではなく実際に船に乗ってコンテナ船を見ることができて、とてもいい経験になっている。

11. ロサンゼルス発着というところで、想像していた以上に乗客は英語圏の方が多いという印象で、船員さんも含めてすごく陽気で気さくな方が多く、船内の雰囲気明るく楽しそう。また乗船日が日曜日ということもあり、海外の方はファミリーでお子様連れの方や、大人数で乗船されている方も多いようだ。プールやエレベーターなどで少し他の乗客の方とお話する機会もあり、新鮮で楽しい。
12. 予想以上にパブリックスペースが広く、快適だった。広すぎて最初は船内の理解に苦労した。船員さんの対応も素敵で、にこやかに話しかけてくれるのが良かった。乗客も優しい人が多く、思っていたより親切だ。アメリカでは休暇にクルーズに乗るのがスタンダードで、一般的な財力があれば手軽な旅行感覚で乗るのかもしれないが、乗船時は、クルーズはお金持ちが乗るものだと思っているので、やっぱりお金がある人は心の余裕があるから親切なのかな?と思う。

クルーズ船としての船内施設(ハード面)全体の感想

1. MSC ベリッシマが17万トン、NCL ブリスが168000トンで、ほぼ同じサイズ。ベリッシマと比較した場合の大きな違いは、第一に、乗客定員である。ベリッシマは、5700人に対し、NCL ブリスは、4000名。そのためか、満船になっていたクルーズでも、NCL では混雑を感じなかった。また、無料のメインレストランでも、自由な時間で食事をとることができるのが良い。第二に、室内の大きな開放空間はないものの、それぞれの小さな空間の居心地が良い。第三に、低層階のパブリックスペースに無料のレストランがあること、第四に、ベリッシマでは前方が高級エリアのヨットクラブで完全にふさがれているのに対し、NCL ブリスは、高級エリアのヘブンの下に、パブリックのレストランとラウンジがあり、前方視界が圧倒的に良いことが挙げられる。アラスカなど、眺める景色が一つの魅力となる航路では、この前方視界は、圧倒的な魅力となる。このブリスはこの前方視界を確保することを一つの売りとして建造されたと聞いた。アラスカでも最高の眺めを提供しているだろう。また、ベリッシマでは、ラウンジには無料メニューがない一方で、こ

のオブザベーションラウンジでは、無料のコーヒー、ジュース、軽食をほとんどの時間で提供しており、空港のラウンジのような快適な過ごし方が可能となっている点も、魅力である。

2. 船内施設は非常に充実しており、特にオブザーベーションラウンジの広さと景観は印象的であった。大きな窓から海を眺めながら過ごす空間はクルーズならではの魅力であると感じた。またカジノやショップなど娯楽施設も多く、船内で長時間過ごしても飽きない工夫がされていた。レイアウトも比較的分かりやすく、多くの乗客がスムーズに移動できるよう配慮されていた。
3. オブザベーションラウンジを設ける代わりに、バツフェは午後に中休みを設けて準備の時間に充てている。年の半年は冷涼なアラスカを回航するので、寒さ対策としてサンデッキやオブザベーションラウンジを設けているとのことであった。ただしプールは屋外のみであり、日焼けができない気候でわざわざ室内プールを設ける意味はないとの判断をしているのは面白い。
4. 中央のアトリウムは吹き抜けの空間になっており、バーやラウンジが周囲に配置され、自然と人が集まるような構造になっていたカジノは人の流れが多い中央エリアに配置されており、通りがかりでも気軽に立ち寄れるようなオープンな空間になっていた。ショップエリアも同様に主要な動線上にあり、レストランや劇場へ向かう途中で自然と目に入るようなレイアウトになっている。また、船首にある大きな展望ラウンジではすばらしい。そして、ここがフリーで誰でも使えることがいい。広い窓から海を一望することができ、開放感があった。
5. 全体の感想として、どのフロアにもレストランやお店・アートギャラリーがあり、かなりコンパクトにまとまっている印象を受けた。オブザベーションラウンジは、とても開放的で、ソファも多くあり、とてもリラックスできる場所であると感じた。また、夕焼けが船内からあんなにきれいに見える場所はあまりないのではないかと思った。
6. 今回、屋内で夜遅くまでゆっくりと話すことのできる場所としてオブザベーションラウンジは非常に重宝した。コーヒーやお茶などが飲み放題であったのも、このラウンジにおける快適性を後押ししたように思われる。今回カジノやショップは私自身の金銭的余裕がほとんどなかったこともありほとんど利用しなかったが、両者とも多様なラインナップが揃っていたように思われた。
7. カジノはスロットマシンがとても多かった。テーブルゲームは他の船と種類は変わらなかった。オブザベーションラウンジは今までの船にはなかったフロアでとても良かった。特に船首から眺める風景と快適なソファはいつまで

でも過ごせるほどくつろげた。

8. 屋内にプール・ジャグジーが無いのが一番の不満だった。終日航海でも曇天で肌寒いことが多く、プールに入るのに良い日は 1 日くらいしかなかった。また、エレベーターの到着が常に遅かった。複数のレストランで、エンジンに起因すると思われる揺れがひどく、気分が悪くなることも少なくなかった。味、雰囲気ともに良いレストランが多いのに、それを台無しにしていると感じた。良い点として、オブザベーションラウンジは雰囲気が良く、ソファなどもたくさんあったため、よく利用した。
9. オブザベーションラウンジや複数のレストランで船内でのくつろぎやコミュニケーションの場所は十分に確保されていたと感じた。一方で、屋内のジャグジーやプールがないのでアラスカに向かう時の遊び場所が少ないのではと考えた。
10. 前回の船とは違い、たくさんのレストランがあることに驚きました。深夜までやっているレストランもありよかったです。オブザベーションラウンジではみんなで集まってたくさん話することができて、船内の賑やかさとは違い落ち着いてゆっくりすることができてよかったです。
11. 船内の至る所に操作できる大きなモニターがあったこと、船内の動線がシンプルで比較的分かりやすい造りであったことから船内で迷うことも少なく、船内施設の場所や仕組みにすぐに慣れて快適に過ごせた。特にオブザベーションラウンジは私達が最もよく使用した船内施設で、乗客の交流スペースとしての意義を果たしており、最適な空間だったと思う。
12. ラウンジのソファが気持ちよかった且つ、ラウンジは広くゆったりと時間を過ごすことができた。プールは一般的かもしれないが、ゴーカートがあるのがとてもよかった。Heven 専用のプール、ダイニングがあるのもよかった。部屋が狭く、スーツケースを広げると歩く場所がなくなるのが不満点。日本人でもそう感じるから、海外の体の大きな人はもっと大変なのではないかと思った。

"船内サービス(ソフト)の感想

- ①「レストラン・カフェ・バーでのメニューについて」,
- ②「レストラン・カフェ・バーでのサービスについて」,
- ③「キャビン清掃、ホテルレセプションについて」,
- ④「カジノにおける接客サービスクオリティ・雰囲気について」

- 1.①レストランの選択肢が多い。メインのレストラン以外に多様な有料レストランがある。質を確保するため、有料化はされているが、パッケージを買えば、実質 3 つのレストランは無料で楽しめる工夫がなされている。(その分、ベースの料金が高くなっていると感じるが、乗船後の満足度は高いと感じる。)また、いくつかの有料レストランも、乗船後には、半額のキャンペーンが行われており、利用しやすい。7 日間のクルーズで、4 つの有料レストランを楽しめたことで、料理に飽きることなく、7 日間クルーズを楽しめた。また、バーも、趣向が凝らされており。モヒートバーや、地ビールバーなど、お酒の飲める人が楽しめる工夫がなされている。さらに、アメリカンローカルなレストランが 2 か所あり、定番のハンバーガーをベースに、気軽に食事を楽しめる。低層階にあるレストランは、ほぼ 24 時間空いており(深夜の 2 時から 5 時までは閉店)、いつでも、語らえる場として居心地が良い。②レストランメニューは、充実しており、申し分ない。低層階にあるレストラン「ローカル」にアメリカンの豊富なメニューが並ぶ。オーダー制になっているため、ウェイターを呼ぶ必要があるが、最新の船では、このレストランは、お店が並ぶ形になっており、それを見ながら、モバイルオーダーができるようなので、それもぜひ体験してみたい。最新の船(プリマクラス)は、大人気である。③キャビンは十分な広さであり、清掃も問題なく行われていた。④カジノは体験しなかったが、さすがアメリカ、いつもにぎわっていた。
- 2.船内のレストランやカフェは種類が豊富で、多様な食事を楽しむことができた。メインダイニングもサービスが丁寧で、ゆっくり食事を楽しめる雰囲気があった。スペシャルレストランは、言語の問題で少し誤解が生じる面もあったが、おしなべて満足できた。料理の質は、悪くはないが驚くようなおいしさではないと感じた。エンタメとしては、雰囲気も含め問題なく楽しめる。またキャビンの清掃も行き届いており、快適に滞在できた。レセプションの対応もスムーズであり、大規模な船でありながらサービスの質が保たれている点が印象的であった。ただ、英語での会話となるので、本当にどのように案内されているのか、対応が丁寧なのかは不明とも言える。
- 3.単品ではどのレストランも美味しいが、1 週間も続けて食べているといずれも脂肪分が多い料理で胃もたれし、日本人向きではない。buffetのインド料理コーナーが大変充実していたので、むしろ夜もbuffetのカレーを食べていればよかった。シンガポール発着のクルーズもインド料理が充実していてレストランでもインド料理があったのに対し、こちらは有料・無料問わずレス

トラン料理はひたすら欧米で、アメリカ人の嗜好の多様性のなさを感じた。地ビールバーはサンデッキとなっていてとても雰囲気がよく満足したが、モヒートバーに行き損ねたのは残念。

- 4."①それぞれ専門性の高い料理が提供されていた。鉄板焼きではシェフのパフォーマンスを楽しみながら食事ができるなど、エンターテインメント性のある食事体験も魅力的であった。②スタッフは常に笑顔で対応しており、注文や料理の説明もわかりやすく行われていた。料理の提供やテーブルサービスは比較的スムーズであり、快適に食事を楽しむことができた。③キャビンの清掃サービスは非常に行き届いていた。ただ、タオルの交換は1回ではなく、適宜してほしいが…これは仕方ないことであろう。レセプションでは質問について適切にこたえてくれた。ただし、時間によっては待ち時間が長かった。"
- 5."①レストランはすべて想像以上においしく、かつかなり本格的だったと感じた。どの料理もかなりこだわられており、うまみがあったが、アメリカ人用ということもあったのか、少し量が多く毎日満腹になった。②レストラン・カフェ・バーどこも店員さんがとても優しく対応してくれ、メニューも毎日かなり豊富で大変満足だった。③キャビン清掃は毎日しっかりとタオルとベットメイキングがされており、大変良かった。④カジノは利用していないが、今回の船はほかの船と比べてカジノのスペースがかなり狭かったと感じた。"
- 6.①全般的に料理はおいしいものが多く、特にイタリアンレストランのピザやステーキハウスのステーキは個人的にとっても気に入った。量が全体的に多めだったので、満腹度も高いことが多く、それに伴うように満足度も高くなったように感じた。②私自身食事のスピードは遅めであることが多いのだが、食事の提供スピードがそこまで早くなかったためか卓上にご飯がたくさん滞留する状況はほとんど起きなくて良かったと感じた。③タオル交換やベッドメイクなどの清掃はしっかりと行なわれていて、特に気になる点はなかったように感じた。④今回カジノは利用しなかった。
- 7.レストランの食事は申し分なかった。とても美味しかった。有料レストラン、無料レストランどちらも美味しくて、特にスープの美味しさには感動した。サービスについても素晴らしく、特に言うこともない。水や他のものを気を使ってすぐに持ってきてもらえた。清掃に関してはほとんど問題なかったが最終日の前日だけ清掃がされなかった。原因はわからないが、1日だけされないというのが不思議だった。カジノは今回していないのでわからないが、他のサービスに関してとても良かった。

8. 有料レストランは味・雰囲気ともに格別だった。ただし鉄板焼きレストランは、経験としては良かったものの味は酷かった。無料のレストランは種類が多く、日や時間によって自分で選んで行くことができ良かった。もしかしたらメニューは共通するものもあったのかもしれないが、雰囲気が違うため飽きることはなかった。深夜にグループで話すことができる場所がなかったため、オブザーベーションラウンジもしくはビュッフェなどの場所があいていればよかったと感じた。レストランのウェイターなどは皆、急いだ雰囲気がなく気さくであり、感じが良かった。
9. "①どのレストランもメニューからアメリカ人が好む仕様に作られていたと感じた。バーガーなど肉料理中心だった。②パースデーケーキなどの追加のサービスもしっかりしていて満足度が高いと感じた。③特に問題はなく、常に清潔に保たれていた。④カジノはほぼ電子のロットで、カジノらしさという魅力は感じられなかった。"
10. ①とにかくどれもとてもおいしくて驚きました。②ウェイターの人がみんなとても親切でフレンドリーでとても楽しかったです。③毎日綺麗に清掃されていて気持ちよかったです。④カジノは行っていませんがゴーカートが本格的で楽しかったです。
11. ①各レストランで雰囲気やコンセプトが異なっていて、乗客が非日常感を楽しめる空間設計がされていた。メインレストランでは日替わりのメニューもあり、滞在期間が長い乗客でも飽きずに毎日様々な食事を楽しめる工夫が凝らされていると感じた。②注文を聞いて食事を提供して下さるだけでなく、食事の前後に気さくに話しかけてくださったり、食事の感想や美味しいかどうかなどこまめに声を掛けてくださったことが丁寧ですごく好印象だった。③毎日綺麗に清掃をして下さりすごく快適に過ごすことが出来た。乗船中、ベッドをツインにしていたいたり、部屋の中で困りごとがありサービスに電話をかけたこともあったが、丁寧に即座に対応して下さり助かった。④カジノは利用していないため分からない。
12. ①メニューが豊富でよかった。7日間いても飽きなかった。②Localは提供までの時間が遅かったので、早くしてほしい。鉄板焼きは非常に面白いパフォーマンスだったが、あれがスタンダードの日本の鉄板焼きではないので勘違いはして欲しくない。面白パフォーマンス要素を入れた方がアメリカンには受けるんだろうなと思った。③不満はない。ただ、部屋からルームサービス、ゲストサービスに電話をした時になかなか繋がらなかったのが不満点。④16階のガーデンカフェでのビュッフェでは食べ終わるとすぐにお皿

を下げに来てくれて気持ちよかった。

"船内の SHOW やエンターテイメントの感想

- 1.エンターテイメントに関しては、一度、プロダクションショーがあったが、ダンサーはなしで、シンガーが 4 人で少し踊って歌うショーだった。歌は、いろいろな有名な曲が混ぜられており迫力があったが、見た目には、寂しかった。その他は、コメディータッチのマジックショーや、超能力を感じさせるマジックショーなどであり、英語がわからない人には、厳しい内容だった。MSC ベリッシマは、アジア向けに SHOW をアレンジしており、ベリッシマのほうが楽しめると感じた。なお、アメリカ人は、コメディが好きであり、アメリカナイズされていると感じた。ヨーロッパで乗船するとまた異なるのかもしれない。各バーでは、生演奏があり、落ち着いてクルーズを楽しめる。
- 2.船内ショーには多くの乗客が集まり、船内での夜の時間を楽しむ重要なコンテンツになっていると感じた。プールデッキでのダンスタイムもたのしく、エンターテイメントが充実していることで、航海中の時間も退屈することなく過ごすことができる点がクルーズの魅力の一つであると理解した。
- 3.閉鎖空間でのダンスや音楽のショーが人気がなく、解放空間でのコメディショーが人気なのがアメリカのクルーズみを感じた。バーなどでのピアノやボーカルの生演奏も MSC などに比べて少ないようだ。プールサイドの生演奏は人気があった。
- 4.毎晩、ショータイムがあることを期待していたので、ショーの少なさは残念に思う。ただし、ショータイムに時間を取られず、夜の時間を楽しむこともできた。ショーの内容としては、歌が多かったが、ダンスも見たかった。ジャグリングはとても楽しく見ることができた。
- 5.船内の SHOW は、ICONS とマジックショーとビートルズを拝見した。ビートルズはかなりクオリティが高く、コピーバンドとしてとてもよかった。また、ICONS もアメリカを代表する曲と派手な演出で、かなり盛り上がり楽しむことができたが、ビートルズも ICONS も選曲が少し古い年代のものが多く、乗船している世代の予想がつきやすかった。
- 6.私自身ネイティブの英語を聞き取る能力があまりないため聞き取ることはできなかった英語も多かったが、どのショーも雰囲気を楽しむことのできる要素が多かったため、十分に楽しむことができた。また、日本周辺などではあまり行われることのないと聞くコメディ系のショーも、いざ見てみるととて

も面白く、日本周辺でももっと見てみたいと感じた。

7. ショーはいつも通りで海外の良さがあつた。1つが日本語が少し出てくるショーで不思議な感覚だつた。観客もアメリカ人主体だつたと思うので、盛り上がる場所はすごく盛り上がつていた。それはアジアのクルーズとは少し違ふところだつた。
8. コメディやクイズなどが多く、音楽のショーも馴染みがなかつたため、あまり楽しめるエンターテインメントはなかつたが、アメリカの客層に合わせるとこのよふなラインナップになるのかという点は興味深かつた。
9. ショーは人気で、マジックショーやスタンドアップコメディ、アメリカの 40,50代をターゲットにした歌など充実してつた。
10. コメディショーが特に面白かつたです。日本のショーとは違ふ、観客も含めてショーが成り立っている感じがして素敵でした。ショーに参加する人を募集した時に、みんな恥ずかしがらずに自己主張をしてつてすごいなと思つました。
11. バンドショーやICONSを観覧したが、どれもすごく迫力があり面白かつた。特にICONSではブルーノマーズやレディーガガなど、知っている人が多い有名な曲のカバーも多く、様々な世代の人が楽しめる工夫がされていると感じた。出演者と見ている乗客みんなて一体になつて場の雰囲気を楽しむ感じがすごく良かつた。
12. ブルーノマーズは知らない曲が多く、あまり楽しくなかつた。ICONは綺麗に着飾つたお姉さんたちが息の揃つたダンスで見つていて楽しかつた。歌もうまかつた。知らない曲も多かつたが所々知っているものもあつて、曲に乗りながらや口ずさみながら聞くことができつて嬉しかつた。マジックショーが1番面白かつた。あのおじさんがすごいと思う。途中でステージ上に上がった子供とのやりとりがとて面白かつたし、遅れてきた人に対して一からショーをやつてあげるのも面白かつた。

"船内の施設での体験に関する感想

1. スポーツで言へば、圧倒的な迫力は、船上のカーレース場「スピードウェイ」である。一度体験したが、船上にいることを忘れる迫力だつた。天候にも左右されるので、乗れるときに乗つておくのが良い。最終日は運営されていなかつた。また、真下に落ちるスライダーも、迫力があつた。楽しむ余裕は無かつたが、次回は楽しみたい。また、ダンスは、プールサイドで行われてつた

が、MSC ベリッシマのような規模でのダンスにはなっておらず、参加者も少なかった。アジア人のほうがダンスが好きなのかもしれない。

2. 船内にはジャグジーやプール、サーキットカートやウォータースライダーなどのスポーツ施設で多様なアクティビティを体験でき、乗客がそれぞれのスタイルで楽しめるようになっていた。デッキから海を眺めながら過ごす時間はクルーズならではの体験であった。またオークションイベントやダンスタイムも用意されており、乗客同士の交流の機会にもなっている点が興味深かった。
3. 本格的なレーストラックはかなり運転が難しく、普段オートマ車で運転しているハンドルさばきと全く違って運動神経のなさを痛感した。ウォータースライダーは稼働時間が短く運よく体験できたが、体重による加速が足りずに途中で止まってしまい、最後まで楽しめなかった。ダンスパーティーは 90 年代や 80 年代の曲が多くかかっており、乗船世代をよく分析しているのだと思う。
4. 肌寒く感じる日もあり、プールやジャグジーを中心としたデッキエリアを使うことはあまりなかった。また、ダンスパーティーも夕食を食べてから向かうと、ほとんど終わりの状況であった。もう少し、夜中まで遊べるダンスパーティーなどあってもよかったと思う。
5. 船内の施設でのアクティビティで、特に興味深かったのは、スライダーとゴーカートである。スライダーは二つあり、2 つとも体験したが、想定以上に長く、とてもよかった。また、船外に飛び出すスライダーはかなり怖かったが、滑ってみると案外一瞬だった。ゴーカートは、船の上で車にのるという違和感もありつつ、複数人のグループで乗ることができ、コースも作りこまれており大変面白かった。
6. 今回は外の気温がそこまで高くなかった日が多かったために、スライダーなどに関わるアクティビティの利用は少なめとし、ウォータースライダーを 1 回滑るにとどまった。かなり長時間並ぶこととなったが、終日航海の日で他にすることはほとんどなかったこともあり、あまりマイナスな感情を持たなかった。最も途中何度か列がほとんど進まない事象が起きていたように感じ、それに関してはなぜなのかと感じた。夜に一度屋内のクラブで行なわれていたダンスパーティーに行ったが、特に知っている曲の時には盛り上がるのができて楽しかった。
7. プールは寒くてほとんど入っていないが、スライダーは体験した。スライダーは今回のものはほぼ直角に落ちる初めてのスライダーで初めはすごく緊張

した。しかし、滑ってみると今までにない感覚でとても楽しかった。また滑ってみたいと思った。

8. 屋内のプールやジャグジーが無かったのは残念だった。ウォーターライダーが2種あり、両方とも特徴的で楽しむことができたが、いかんせん肌寒い日が多かったため、利用した回数は少なかった。ゴーカートは、さすがに初めて目の当たりにすると驚いた。実際乗ってみてもとても楽しめた。有料なこともありあまり混雑していなかったのもよかった。ただ、ゴーカートで広い面積を使っている分、その他のアクティビティは少なかったため、時間としては持て余すことがあった。
9. プールの目玉とも言えるライダーが 54kg 未満は乗れないという予想外の規定があった。日本国内であると多くの人を対象外となってしまうので文化の違いを感じた。角度や位置など少し変えればもう少し多くの人を対象になるのではと考えた。
10. ジャグジーやプールには入ることができなくて残念でしたが、プールサイドでは毎日のようにダンスパーティーが行われていてそれもたくさんの方が参加していて国民性の違いを感じました。ゴーカートは本格的で面白かったし、そんなアクティビティが船の上でできることが驚きでした。
11. 乗船前からゴーカートとプールを楽しみにしており、どちらも想像していたより本格的で楽しかった。屋上にあるため、ゴーカートの待ち時間も景色を見ながら待つことができ良かった。プールの最も大きなライダーは体重制限のため乗れず残念だったが、見ているだけでも迫力が大きく、空気感を楽しめた。プールサイド近くでは日中も夜もダンスイベントが開催されており、私達は食事の時間が遅めだったため夜のイベントにはあまり参加できなかったが楽しそうだった。
12. ウォーターライダーが海にはみ出ている部分があって、スリルがあって楽しいだろうなと思った。体重制限があるのはかわいそうだからなんとかならないのかと思った。ジムは海を見ながらランニングができて素敵だった。ゴーカートは 8 分間だったが十分楽しめた。もっと台数が少なければスイスイ行けてもっと楽しかったと思う。ダンスパーティーはみんな楽しそうだった。日本人はシャイなのであまりみんな乗り気じゃなかったが、私はああいう雰囲気も好き。

クルーとのディスカッションで学んだこと感じたこと

1. 船会社の計らいで、全ての部門のマネージャーを統括する、ジェネラルマネージャーGM にお話を伺う機会を持つことができた。学生のいろいろな質問にも丁寧に答えていただいた。語学をしっかり練習したことや、お客様の立場で対応することの必要性を伝えていただいた。
2. 船の運営が非常に多くのスタッフによって支えられていることを学んだ。クルーズ船は一つの「海上都市」のような存在であり、宿泊、飲食、娯楽など多様なサービスが統合的に提供されている点が特徴的であると感じた。また乗客満足度を高めるために、サービスや運営の改善が継続的に行われていることも理解できた。
3. 人材育成に対する強い思いがあった。良いサービスを提供するためには優秀な人材を集めなければならないということ、それが船内のクルーの仕事に余裕を生み、無理のないサービスを生み出せている。結果的に他社から優秀な人材が転職することにもつながっている。
4. クルーズ船は単なる宿泊施設ではなく、ホテル、レストラン、劇場、商業施設など多様な機能を併せ持つ存在であり、それらを円滑に運営するためには、組織的で効率的な管理体制が不可欠であることを学んだ。クルーの多くがさまざまな国籍を持つことから、多文化のチームをまとめるマネジメントの難しさと重要性についても理解を深めることができた。
5. ジェネラルマネージャーとのディスカッションを通して、ノルウェイジャンの船員はほかの船会社のクルーよりも生活の質がかなり担保されていることがわかった。普通の船会社では、4人で一部屋なのに対して、ノルウェイジャンは2人で1部屋というかなり、船員に配慮した仕組みであることが一番印象強かった。また、ノルウェイジャンはSHOWよりもレストランやラウンジなど食事や休息の部分にかなり気を使って船を設計し、運営していることがわかり興味深かった。
6. LA 港の視察を行った際にも感じたが、組織をまとめるような位にある人だからと緊張感をもっていた割には、実際に会ってみると思いのほかフレンドリーで安心するといった感覚を再び覚え、このようなケースは比較的多いのであろうかと感じた。内容に関しても、なぜ屋内ラウンジが広く整備されているのかなど、多くの興味深いお話をたくさん聞くことができ、とても良かったと感じた。

7. ジェネラルマネージャーとのディスカッションはとても有意義な時間だった。トップとしての難しさを聞いたり、自分が就職する会社もクルーズ船を運航しているので、その点での苦勞を聞いたりなどこれからにも役立つ話を聞くことができた。
8. クルーの多くがベトナムなどアジア人であることが、実感はしていたものの数字で聞いて、驚いた。そのコスト面での理由や、アメリカ人をターゲットに体験を設計するにあたっては本部でそれを行っていることなどを知り、合理的だと感じた。
9. クルーという職が夢に感じられるような給与水準の場所でリクルートを行っているのではと推測できた。クルーの出身地の偏りがあるのはそういったものが反映されているのではと考えた。
10. これだけたくさんの人をまとめることができるのはすごいなと思いました。クルーだけでも何千人もいるのにそれに加えてたくさんの乗客もいるので、大きな責任が伴う仕事だなと思いました。クルーは思ったよりもアジア系の人が多くてちょっと嬉しかったです。
11. クルーズ船で働かれている方々が乗船前や乗船中どのような過ごし方をされているのかお話を伺い、裏側を知ることができて興味深かった。マネージャーが「どのようにして乗船客に楽しんでもらえるかを大切にしている」、「様々なことが起こった際の対応を考えるようにしている」と仰っていたのが印象的で、社会人を控えている私にとって学びになる部分も多かった。
12. クルーに最も必要なことはお客様のことを考えることである。だから、これから私たちが社会人として働くが、自分の利益ではなく(利益を考えることも一定必要だが)お客様のことを考えて働きたいと思った。また、リカルドも最初は下っ端として努力してそこから今の地位についているから、コツコツ努力することが大切なのだと思った。船内で使う大量の水は積んでいたら足らなくなるのではないかと気になっていたが、海水を綺麗にして使っていることは納得した。

乗船港(LA 港)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応、観光地(LA)の魅力など)

1. 大型のクルーズ客船が 2 隻同時に着岸できる配置になっており、また、駐車場や乗降場所も広い。ターミナルは機能的にできており、乗船はスムーズであった。下船は、早めの時間に降りたこともあり、入国で少し並んだ。9 時

に自動ゲートが使えるようになってからは、動きが早くなった。LA は、日本からの玄関口であり、日本人街もあり、親しみやすい。日本人が活躍する大リーグ、ディズニーランドやユニバーサルスタジオなどのアミューズメント、ハリウッドなど、見どころも多い。クルーズ前後に観光することも可能で、クルーズ初心者にも良い出発地である。

2. 乗船手続きも比較的スムーズであり、多くの乗客を短時間で処理できる仕組みが印象的であった。今回は DT 空の直接アクセスではなかったのが特殊であるが、Uber 等を利用すれば、DT からわかりやすいアクセスで都市観光との接続も良い。クルーズと観光を組み合わせた魅力的な拠点となっていると感じた。
3. 8年ぶりに LA に来たが、その時よりも公共交通機関が充実したのではない。ただ、やはり貧困層が乗る移動手段というのは変わっていなかった。Uber が普及したこと、自動運転車や自動配送機が導入されていたことに、アメリカ人の人手不足・賃金高騰への対応解が日本と違うと痛感した。港の感想は 6 と同じ
4. 荷物を預けてから、チェックインまでの時間もとてもスムーズに進んだ。乗客を受け入れるための施設や運営体制が非常に整備されているということである。ターミナルは広く、チェックインや荷物の預け入れ、セキュリティチェックなどが効率的に行えるように設計されており、多くの乗客が利用するにもかかわらず比較的スムーズに手続きが進んでいる印象を受けた。
5. LA 港はかなり、クルーズ船の寄港地として整備されている印象を受けた。乗船時も下船時もかなりスムーズな流れで短時間で済ませることができ、クルーと港の職員もかなり慣れているのが見受けられた。パスポートとクルーズの予約の書類を確認させるだけで本当に簡単に乗船できた。荷物もすぐに部屋に届き、かなり快適であった。
6. LA の街はハリウッドやグリフィス天文台など多様な観光地があって、長期間滞在しても全然飽きることのない場所であるように感じた。少し懸念される治安面に関しても、場所や時間帯などにしっかりと気を付ければ、あまり問題ないように感じた。港での乗船時の手続きは思ったよりもスムーズに進み、あっさり終わったように感じた。
7. 乗船手続きは極めてスムーズであり、不自由なく速やかに入場できた点は高く評価できる。一方で、手荷物検査の際に持ち込みの水が没収された点は予想外であった。ロサンゼルスは観光地としての魅力はあるものの、港周辺を含め治安の悪さを感じさせる場面が多々あり、移動の際には細心の注

意が必要であると感じた。

8. LA 港での乗船・下船の手続きは、自分の時には受付でやや手間取ったものの、全体として待ち時間も少なくとてもスムーズだった。観光地としても、自分はロサンゼルスのみならずアメリカ自体初めての訪問だったため、楽しめた。
9. 乗船手続きは今までにないくらいスムーズでほぼ待ち時間はなかった。オンラインチェックインが充実していたからではと考えた。
10. 昔 USJ に行っていていつか本物のハリウッドを見てみたいと思っていたので、実際にハリウッドに行けて感動しました。いたるところで音楽が流れていてとても賑やかなところでした。ハリウッドサインも実際に見てみたいと思っていたので見れたときは感動しました。
11. 検査から乗船までの動線がシンプルで、スムーズに手続きが進んだ点が印象的だった。また、観光地としてのロサンゼルスの魅力も大きいと感じた。実際に私は乗船前日にロサンゼルスに到着し、下船日も宿泊したが、ハリウッドやダウンタウンなど、ロサンゼルス市内の観光を大いに楽しむことができた。このように乗船前後で市内観光を楽しめる点はクルーズ旅行の付加価値を高めており、ロサンゼルスのように多様な観光資源が身近にあることは大きな魅力であると感じた。
12. 乗船の際はスムーズで対応もよかった。乗船する際も入念な保安検査があり、施設も非常に大きく驚いた。こういうビジネスがあることで、雇用も生まれて良いと思った。ロサンゼルスは観光スポットがたくさんあり、後 1 日観光日が欲しかったなという感じではある。観光地が散らばっている&安全のため、効率よく回ろうと思ったら、移動手段が Uber (タクシーは料金が高い) しかないのがマイナスポイント。

寄港地(プエルトバジャルタ)での感想

1. 寄港時に、ロイヤルプリンセスも停泊していた。着岸した岸壁からターミナルまでは、少し距離があったが、電動のシャトルカーが運転されていた。往路は歩いたが、復路はシャトルに乗車した。天候も良く、2 隻の船を眺めながらの港湾移動は、楽しかった。下船後は、UBER で、オールドタウンへ行き、散策。ビーチを目の前に、数え切れないほどのお店があり、どのお店にもぎわうほどの観光客が来ていた。メキシコの人気リゾート地であることを

実感した。物価も手ごろであり、多くのアメリカ人が寒さを避けてやってくる場所になっていると認識した。

2. プエルトバジャルタは港から市街地へのアクセスが良く、観光地としての魅力が高い場所であると感じた。海岸沿いの街並みや文化的な雰囲気が印象的であり、多くの観光客が訪れる理由が理解できた。クルーズ客にとっても比較的滞在しやすい寄港地であると感じた。
3. 昨年シドニーで乗船したロイヤルプリンセス号に会い、その出港も見送れたことが一番の思い出。観光地や港湾としてはかなり小さいが、10 万トン超のクルーズが複数停まれるインフラを整備していることに驚いた。おしゃれなカフェでお茶ができたが、価格は先進国並みであった。(人口規模は 23 万人程度で鳥取市や松江市と同程度)
4. 港が観光客を受け入れる拠点としてよく整備されている。クルーズ船が停泊する港の周辺にはターミナル施設やショップ、観光案内などが整っており、下船後すぐに観光客が街へ向かえるような環境が整備されていた。港の規模はロサンゼルス港のような巨大な施設ではないものの、観光客を受け入れるための機能がコンパクトにまとまっており、利用しやすい印象を受けた。
5. プエルトバジャルタは海がかなり近く。旧市街・市街ともにとともにぎわっており、ちょうどよい観光地だったと思われる。下船後も Uber の乗る場所までそこまで遠いこともなく、スムーズに下船・乗船できた。少し遠い旧市街も Uber で 20 分ほどでそれほど遠くなくとてもよかった。
6. 今回メインで訪れた旧市街周辺エリアは教会などの観光地が集まっていたり、海岸線など写真映えするようなスポットがたくさんあったりと、非常に楽しみやすい場所であったように感じた。旧市街エリアは港からは少し離れているとはいえ安い値段で Uber を利用できるなど、気軽にアクセスできるようになっていたように感じた。
7. 下船時のパスポートチェックがなく、速やかに街へ出ることが可能であった。ターミナル周辺から非常に活気があり、本場のタコスの味も格別で、観光地としての満足度は高い。ただし、現地では日本円の両替が不可能であったため、事前の米ドル準備やクレジットカードの用意が不可欠であることを再認識した。
8. 一つ目の寄港地として最適な、メキシコらしい町並みを楽しむことができ良かった。港では下船後、ターミナルまでのシャトルバス(?)があることに気づかず、少し迷いつつ歩いてターミナル出口まで向かった。自分たちが気づかなかっただけかもしれないが、もう少し案内があると良いと思った。

9. プエルトバジャルタは最も安全だと感じた町で(数日後に暴動が起きるが)、旧市街とリゾート地が綺麗だった。ターミナルでは出口から遠い方の着岸だったが、往復のシャトルがあったので問題なかった。
10. 教会がとてもきれいでした。町中がとても鮮やかでいるだけで気持ちが明るくなりました。海もとても綺麗で街の人もとてもフレンドリーでした。ペパルピカドというメキシコ伝統の切り絵細工が町中にあるととても可愛かったです。
11. 下船してからターミナルを出るまでが少し分かりにくく戸惑ったが、そんなに時間はかからなかった。市街地までタクシーで移動し、教会、ビーチ、マーケットを回ってから現地の人におすすめしていただいたタコス屋さん、バーで過ごし、ターミナルに戻るというスケジュールを経た。特に教会やビーチの周辺は景色もすごく綺麗で観光客が多く、盛り上がっている印象が強かった。
12. 船から見えるプエルトバジャルタの景色が非常に綺麗だった。建物もカラフルでとても可愛らしい街並み。歩いていて楽しかった。ただ、お土産はかなり高く感じた。スターバックスに、犬用の飲み水が置いてあって面白いなと思った。KIOSKO というのがコンビニのようだ。日本に比べると陳列が汚く、日本の凄さを感じた。本場のタコスがとてもおいしかった。私たちが訪れたすぐ後に、メキシコ麻薬カルテルの暴動があったようで、危機一髪だった。現地の治安が心配。

寄港地(マサトラン)での感想

1. マサトランは、港と街が少し離れているものの、歩ける距離であったため、徒歩で中心街に向かった。中心に教会があり、その周りに、ショップが並ぶ旧市街は、散策にも心地よい。気温もちょうど散歩に適していた。メキシコ料理を堪能し、その後、海岸線まで散歩し、コーヒブレイクを楽しんで、また、徒歩で船に戻った。街を知るには、徒歩が一番である。街並みも綺麗で、再度訪れたい街でもある。
2. マサトランでは港湾周辺の再開発や観光インフラの整備が進められている印象を受けた。歴史的な街並みや海岸の景観など観光資源も多く、クルーズ客を受け入れる潜在力があると感じた。寄港地観光としては、地域の文化や歴史を体験できる点が魅力的であった。

3. 日本のよくあるクルーズ港湾と同じく、マサトランは貨物兼用の港であったので船からはカートで移動させられたが、それがエンタメ感があった。とはいえ、コンテナが積み上がり埃っぽい感じはあったので、やはり客船専用の岸壁であった方が安全のためにも景観のためにも望ましい。(人口規模は44万人程度で金沢市や宮崎市と同程度)
4. 港のクルーズターミナルは比較的コンパクトであるが、観光客向けの案内表示や土産物店などが整備されており、下船後すぐに観光の雰囲気を感じることができる環境が整っていた。港から市街地へのアクセスもしやすく、海の景観と歴史的な街並みの両方を楽しめるのが観光地として魅力である。
5. マサトランもプエルトバジャルタ同様はかなり、観光地として発展しており、Uber で簡単に移動することができた。また、巨大な市場やビーチ、展望台などあり、クルーズの寄港地として1日で回りきれんくらいの規模間で大変良かった。
6. プエルトバジャルタ滞在時にも言えたことであるが、乗船下船はかなりスムーズに行われたように感じた。昼ごろに訪れた市場はどこことなくローカルな雰囲気が感じられた一方で、教会や灯台のようにしっかりと観光地としての要素も兼ね備えた場所であるように感じ、いかにも観光地といった雰囲気とはまた違ったような雰囲気が感じられて良かった。
7. 入国審査等の煩わしさがなく、スムーズな下船が実現されていた。港の利便性も良く、道中では英語を話す非常に親切な現地の人々と触れ合う機会があり、安心して観光を楽しむことができた。過度な混雑も感じられず、異国情緒を穏やかに味わえる優れた寄港地であるといえる。
8. 観光地中心部まで歩いて行き、途中違う道を通ったのか、窓が割れている車が停まっていたり鉄格子がはめてある家々が並んでいたりする道を通ることもあり少しは不安も感じたが、全体的に治安が悪いとは思わなかった、めぐることができた。それもあって観光地化されすぎている程よい観光地に感じ、地元の雰囲気を感じることもできた。
9. マサトランは外務省危険レベル2ということで気をつけてはいたが問題なく、市場や旧市街地、灯台を存分に楽しめた。現地の人に話しかけられることも多く、交流を楽しむことができた。
10. Uber の運転手さんが教えてくれたタコス屋さんがとても美味しかったです。マルガリータも初めて飲みましたがとても美味しかったです。Bar では訪れた人が自由に壁に落書きができて、書くのも楽しかったです。色んな人が書いたものをみるのも楽しかったです。

11. 下船後はすごくスムーズに行動でき、ダウタウンまで出て大聖堂を見学した後、ローカルなマーケットを回って広大なビーチ、タコス屋さんに行き行って戻った。マーケットの二階でレストランの勧誘をすごく受けたり、ビーチで現地の方におすすめのタコス屋さんを紹介され会計も安くしてくださったり、現地の方との関わりも経験でき楽しかった。リゾート地という印象が強かったが、ちょうど寄港の直前にカーニバルのイベントがあったようで、ポスターを町中で見かけ、その頃はもう少し観光客も多かったのかなと感じた。
12. 船からのマサランの景色はあまり綺麗ではないと思った。ビルが立ち並んでいてグレーが多い印象。飲食店街はどの店も客引きがすごくて退散。結局別のタコス屋さんに行ったら大当たり。おいしかった。2 チームに分かれて、私は海岸沿いのマサランモニュメントを見に行っていたが、プエルトバジャルタよりかは見どころが少ない感じ。展望台に行っていたチームは写真を見た感じ楽しそうだった。

寄港地(カボサンルーカス)での感想

1. 半島の先の入り江を囲む形で広がるリゾート地。多くのヨットが停泊し、レストランやホテルが立ち並ぶ。また、沖合には、奇岩があり、小さいボートで近寄り記念写真を撮るのがお決まりコースである。天候にも恵まれ、お決まりの写真が撮れた。まさに、リゾート地でバカンスという雰囲気。岸壁はないため、沖に停泊する形。到着時には、カーニバルの船が停泊していたが、出港時には、ロイヤルカリビアン船が到着していた。オーバーツーリズムを防ぐために、時間をずらして寄港しているのかもしれない。
2. カボサンルーカスは自然景観が非常に美しく、観光地としての魅力が強い場所であると感じた。海と岩山の景観は印象的で、多くの観光客が訪れる理由が理解できた。またクルーズ船が沖合停泊する形での寄港も特徴的であり、初体験だという点を除いても他の港とは異なる魅力的な体験であった。
3. 3つの港の中で、一番セレブ感があり物価も高かった。アメリカに最も近く、ビリオネアが来やすいからであろう。グラスボートでの見学は本業カメラマンが撮影してくれたので、良い写真が撮れた。帰国後、メキシコの麻薬王が当局によって射殺され、当地でも爆撃が起こったと聞き、観光地における治安の重要性を感じた。(人口規模は20万人で盛岡市や秋田市と同程度)

4. テンダーボートで港へ向かう過程は、クルーズ船や海の景色を間近に見ることができ、寄港地へ到着する特別な体験の一つであると感じた。一方で、多くの乗客が同時に上陸するため、待ち時間が生じることもあり、人気寄港地ならではの混雑も感じられた。
5. カボサンルーカスは、港まで小舟でしたが、クルーズ船と海を一望できる小舟はかなりよかった。ただ、リゾート感がかなりあり、物価もほかの2寄港地よりも高く感じた。また、ホエールウォッチングなどのプログラムが多くあったが、今回は時間と料金的に断念した。ただ港を離れるとかなりローカルになり、危なそうな地域も多いため、港の近くで散策するべきだと学んだ
6. テンダーボートを用いた港へのアクセスは初めての経験で非常に新鮮であった。特徴的な岩の並びをテンダーボートでの海上移動中に眺めることができ、とてもきれいだと感じた。先に訪れた2つの港に比べるとアメリカドルが使える店が多いという印象で便利さを感じた。朝はスムーズに下船できて非常にありがたかった一方で、昼船に戻る際には1時間程度並ぶこととなり、少し大変だと感じた。
7. 本寄港地では初めてテンダーボートへの乗船を経験した。現地ではバーで酒を嗜み、土産物を購入するなど、派手な観光こそないものの落ち着いた時間を過ごすことができた。しかし、船へ戻る際にはボート待ちの長行列が発生したため、テンダーボートを利用する際は帰船時間に余裕を持って行動すべきである。
8. 知名度が高いリゾート地であったため期待していたものの、寄港地としては最も魅力がなかった。港部分のみカフェやバー、土産物屋が並んで雰囲気良かったが、港から出ると殺伐としており、何も無いといってよいような場所だった。港としては、沖付け・ボートでの乗下船は初めての経験で、興味深かったし楽しむこともできたが、待ち時間もとても長いため、あまり体験したいものではないとも思った。
9. カボサンルーカスは初の沖停泊ということで、小さい船に乗り換えて港と往復した。港は観光地化されていたが、10分も歩くと殺伐とした街になり、電線に靴がかけられていたり、Covid と叫ばれるなど日本では経験し得ないことが起きた。
10. クルーズ船から小型船に乗って陸まで移動するのが面白かったです。自分たちの乗っていた船の大きさに圧倒されました。ツアーなどには参加しなかったのであまりすることがなかった印象ですが、みんなで壊れたゲーム機で遊ぶのが楽しかったです。

11. アメリカドラマの中でも地名を耳にしたことがあり、今回寄港したメキシコの三カ所の中では最もリゾート地という印象が強かった。ホエールウォッチングのツアーや小物の販売で声を掛けられることが多かったり、お土産屋さんやスーパーの価格が高めに設定されていたり、クルーズの寄港が経済にかなり影響を与えていることを実感した。一方で、街を歩いていると雰囲気少し変わって靴が電線にぶら下がっているのを目にしたり、少し治安が悪い地域もあるのではと、違った一面も感じられた。
12. THE 港町という感じで天気もよく青い海と白い船が綺麗だった。建物が丸型をしていて可愛かった。小型の船で上陸する経験もとてもよかった。海岸から離れていくにつれ、観光客が減り、治安が悪くなる印象。歩いていると電線に靴がかけられておりみんなで安全第一で引き返した。大型ショッピングモールがあり、そこでお菓子などのお土産が買えたのがよかった。あざらしが大量におり、面白い光景だった。

スマート・クルーズ・アカデミー企画全般についての感想と今後の要望

1. 飛んでクルーズアカデミーは、海外に飛行機で飛び、現地でクルーズを楽しむスタイルだ。初めてのクルーズは、手ごろな日本発着クルーズが良いが、海外でクルーズを体験することで、いろいろなクルーズを体験でき、視野がひろがる。今回のメキシコクルーズでは、4000人の乗客のうち、日本人は、私たち12名と、もう1名のシングル客のみだったようだ。ほとんどがアメリカ人で、陽気で気軽なクルーズを楽しんでいた。値段も、アメリカの物価にしては手ごろなため、気軽に特別感のない普通の旅行として参加しているのだと思う。時期が2月となると、実施場所は限られるが、今後も、いろいろな体験を提供していきたい。
2. 今回はアカデミーの要素は薄いですが、自由な分、学生間の交流は逆に深まったように思うので、今後のアカデミー運営において参考になる側面も感じる事が出来た。また、教員と学生の共有する時間は、お互いに学ぶことが多く、あったほうが良いと思うが、それぞれに予定も立てているとそのような時間は持ちにくいので、どこかの時間帯に事前にセットしておくのが良いと思った。
3. 今回は学生が8人と教員4人でバランスが良く、各人の顔と名前が一致して全員と交流できたことが貴重であった。本場アメリカでは気軽なレジャー

としてクルーズの地位が確立されていることを実感できたツアーであった。アメリカ人とアジア人のクルーズに対する嗜好差も体感できた。

4. 学生同士の交流、クルーズ業界の実態を学ぶ機会、寄港地での観光体験など、さまざまな要素が組み合わさったプログラムであり、通常の旅行では得られない多くの経験をすることができると思う。本場のクルーズを体験できたことも大きな意義があり、さらには、大型クルーズ船の施設やサービス、乗客の楽しみ方などを実際に見ることで、クルーズ産業のスケールの大きさや成熟した市場の姿を理解することができたのではないだろうか。
5. 今回の参加者は阪大生と兵庫県立生だったが、人数が少数だったこともあり、かなり交流できた。お互いに、旅行経験や大学の話など、たわいもない会話もでき、仲が深まり良かった。また、寄港地や会食でも常にともに行動し、お互いにいい影響を与えあえたと感じた。
6. 今回は全体の人数が比較的小規模であったのもあってか、食事や観光など状況を問わず、先生と学生との違いや大学の違いに関係なく交流ができてとても楽しかった。寄港地での観光に関しても、以前訪れた台北などのようなアジアの都市とは、町の風景や食事など多くの面で大きく異なる文化を感じることができて非常に新鮮に感じられた。今後に関しては、ヨーロッパでのクルーズではまた違った風景や文化を楽しめそうで、機会があれば行ってみたいと思った。
7. 他大学の学生と深く交流し、さまざまな話をできたことは極めて貴重な経験であった。自身にとって初上陸となったメキシコを含め、個人ではなかなか行く機会のないアメリカ発着のクルーズを体験でき、その楽しさを存分に味わうことができた。今後は、このような学生同士の繋がりや本格的なクルーズ体験の機会がさらに拡大することを切に要望する。
8. 今回は終日航海の日が多く、船内のアクティビティも少なかったためかえて、ただ集まってゆっくりと話すだけの時間が多く、それはとても良い時間だったと思う。人数が少人数だったことも、全員で親密になれたことの原因だと思う。過去の、他の大学・他の学生が多く来るような大所帯のクルーズも良かったため、少し寂しさも感じたが、とはいえそれとは別の楽しさがあった。米国発着という点は間違いなく参加の障壁であると感じるため、もう少し行きやすい場所だとゼミのみんなで来れて良いとも思うが、だからこそその特別感もあるため、悩ましいと感じる。
9. 今回は少人数ならではの魅力を存分に感じられた。B2-MI といった幅広い年齢層だったからこそ、クルーズといった体験以外でも多く学ぶことはあ

ったと感じている。旅行に慣れたメンバーが多かったので安心して観光することもできた。全体として非常に充実した時間だった。

10. 他大学の生徒と交流が深められることはもちろんのことですが、他大学の教授の皆さんとも交流が深められるのはとてもいい機会だなと思いました。寄港地観光ではなかなか行けないような場所に手軽に行けていいなと思います。
11. 前回のコスタセレーナ乗船時と比較して今回はかなり少人数だったため、クルーズを通じて他大学の学生や先生方とも交流の機会を沢山持つことができた点がすごく良かった。また今回は終日航海の日も設けられていたおかげで、クルーズ船内のアクティビティや食事、各寄港地での観光も、バランス良く満喫できた。遠方でのクルーズだからこそその魅力をすごく実感することができたため、時間のある学生のうちにぜひ多くの人に経験してほしいと感じた。
12. 少人数だったからこそ阪大生と非常に仲良くなれて嬉しかった。英会話力が高く、刺激を受けることができた。英語が堪能な人たちと関わりを持つことがモチベーションの向上に繋がると感じた。このクルーズに参加していなかったら絶対足を運んでいないであろう国、都市に行くことができてよかった。初めてのクルーズが本場のクルーズであるため比較対象がないが、初めてで本場を味わえたのは良い経験になった。もっとたくさんの学生にクルーズに参加してもらい、視野を広げるきっかけにしてほしい。

地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(メキシコの場合)についての感想

1. 今回は、メキシコのリゾート地を3箇所を回ったが、複数の船が同時に寄港しているなど、寄港地は、多くのクルーズ客でにぎわっていた。これらのリゾート地では、クルーズの寄港は大きな観光の要素になっている。アメリカから気楽に来れるという意味でも、この地域の活性化につながっていると思われる。また、カボサンルーカスでは、岸壁は無く、沖留めであった。陸地から船に戻る際には、ボートに乗るため、最大1時間ほどの待ち時間が出ており、岸壁に着岸できる良さはあると思われるが、気候も穏やかな南国であれば、荒浪でテンダーボートを降ろせないということも無く、多額のコストをかけての港湾整備をしなくても良いかもしれない。
2. 特別な観光客という感じはないのではないだろうか。毎週、高頻度でやって

くるお金を使ってくれる観光客という感じなので、地域に定期的にお金落ちる重要な基幹産業となっている気がする。活性化のために誘致という雰囲気は感じられなかった。

3. 以前、プーケットに寄港したときと同様、カボサンルーカスもクルーズの定番寄港地で複数船が入港することもあるにもかかわらずクルーズ用の岸壁がなく沖留めであった。今回の寄港地 3 か所の中では最も人口規模が小さな町とはいえ、日本ではすぐ予算がついてインフラ整備がされるであろう。LAは温暖少雨という印象があったが2月は意外と寒く、半袖で出歩けるメキシコにアメリカ人が避寒に行きたがるのも分かる。気候は外生要因であり、政策などで変えられない優位性である。
4. クルーズ船は一度に数千人規模の観光客を運んでくるため、寄港地の港や周辺地域にとって非常に大きな経済効果をもたらしている。港湾はクルーズ観光の入口として重要な役割を果たしている。寄港地では、港のターミナル周辺に土産物店やレストラン、観光案内所などが整備されており、下船した観光客がすぐに観光や買い物を楽しめる環境が整えられていた。
5. 今回のメキシコの 3 都市はまさしく、クルーズ船の寄港地となっていることそのものは地域活性化に直結していると感じた。毎週のようにアメリカからくる観光客の現地地域への出費は、かなりそれぞれの都市の主軸の財源だと感じた。港もかなり整備されており、タクシー運転手などもクルーズ船の寄港のスケジュールで動いていると推測できる。
6. クルーズ船の来航によって多くの観光客がやってくると、現地で買い物をしたり、アクティビティを楽しんだりするなどして非常に多くのお金が使われ、地元の経済に多くの利潤がもたらされると感じた。そのような経済効果のためにも港湾は水深などの面で大型船に対応させること、出入国管理などの設備を整えることなどが重要であると感じた。
7. 寄港地の港湾施設や受け入れ態勢は非常に良好であったと感じる。しかし、港から市街地への出口や移動方法に関する案内がより充実すれば、利便性はさらに向上するはずである。また、観光客が安心して滞在できるよう、港湾周辺を含めた治安維持の強化を徹底することが、地域活性化や誘致の成功において不可欠な要素であると考えた。
8. メキシコのどの寄港地でも他のクルーズ船を見かけたため、寄港地としての規模感の大きさを実感したし、クルーズ客誘致の重要性も感じた。一方で、自分たちのクルーズの翌週に麻薬組織による報復攻撃が行われ、寄港地の一つであったプエルトバジャルタでも騒動が起きたことを考えると、治

安改善や安全性の担保が、特に治安の良くないメキシコでは求められると感じたため、単なる港湾整備や観光施策に留まらない取り組みが必要なのだろうと感じた。

9. メキシコの港と言われれば密輸や人身売買などに使用されることもあるが、クルーズなど明るい目的に使われているという時点でその地域の治安が他よりも良いことがわかる。メキシコの観光客誘致と治安改善は同時に進めていくことで双方促進されていくのでは考えた。
10. クルーズ船の寄港地になるというだけでたくさんの人が街に訪れることになり、その人たちが街でお金を使うことによってもたらされる経済効果はとて大きいと思います。港がある街とない街とでは同じようなところにあつたとしても経済力の差は大きいと思います。
11. 今回メキシコでの寄港地観光を通じて、クルーズ船の寄港が巨大な観光消費を生み、飲食店や土産店、現地ツアー会社を中心に大きな経済効果を得ていることを身を感じた。宿泊なしの数時間の滞在であっても、クルーズの乗船客が地域経済に与える影響は大きく、クルーズ客船誘致の効果はかなり大きなものであると感じた。
12. 3つの都市とも、クルーズがあつてこそその観光地だと思う。日本でもそのような観光地としてのあり方をもっと模索していくべきだと感じた。クルーズの寄港地であることで雇用が生まれ、街に活気が出ると感じた。港街側はそこでいかに楽しい経験をしてもらい、また来たいと思わせて、リピートしてもらえかが重要なポイントだと感じた。

クルーズを通じた若い世代の国際交流・異文化理解についての感想

1. アメリカ発着のメキシコクルーズは、若い世代が多いと思っていたが、思っていたほどには、若い世代ばかりではなく、年配の乗客も多かった。逆に言えば、アメリカでも、さらに若い世代にクルーズが浸透することで、クルーズがまだまだ伸びる余地があると感じた。(若い世代は、ロイヤルカリビアンや、カーニバルに乗っているのかもしれないが。) 船内のアメリカ人の様子から、アメリカ人の生活スタイルも学べたし、日本からこのようなクルーズを体験することで、より一層、アメリカ文化を理解することができると感じた。
2. クルーズのような国際的な環境では、多様な文化や価値観に触れる機会が多く、若い世代にとって非常に有意義であると感じた。異なる国や背景を

持つ人々と交流することで、視野を広げることができる。こうした経験は将来的な国際理解にもつながると考えられる。

3. 今回のクルーズは子供だけでなくティーンが大勢乗船していて、ティーン向けの出会いイベントも設定されていた。クルーズは大学生だけでなく中高生の交流の場にもなれるのだと思う。中高生で乗船機会があれば、留学への意識が高まるまたはハードルが下がるだろう。
4. 今回のクルーズ体験を通じて、クルーズ船は単なる観光の手段ではなく、国際交流や異文化理解を深める場としても大きな役割を持っていると感じた。クルーズ船にはさまざまな国や地域から多くの乗客が集まっており、船内では自然と多様な文化や価値観に触れる機会が生まれる。特に若い世代にとっては、こうした環境の中で異なる背景を持つ人々と交流することが、国際的な視野を広げる貴重な経験になると思う。
5. クルーズ船を通じて国際交流や異文化理解は促進されると感じた。やはり、アメリカ人ばかり乗っていたこともあり、エレベーターで軽く会話が始まるであったり、陽気な感じがまさしく交流のきっかけになると同時に、他国の文化に対してなにかしらの考え方を持つことは異文化理解の第一歩だと思った。
6. 寄港地での観光の際には食事やアクティビティなどにおいて現地の方々との交流をする機会があったり、船内でも多様な国籍をもつクルーズ客やクルーの方々との交流をする機会があったりして、国際交流や異文化理解につながりそうな機会は多くあると感じた。特にクルーズで訪れる都市の中には個人旅行で訪れる機会の多くない中小規模の都市も時折存在すると感じるが、そういった都市にある地元ならではの飲食店などを訪問することは、地元の雰囲気を感じるいい機会になるように思われた。
7. 若い世代にとって、クルーズを通じた異文化交流は積極的に行うべき意義深い活動である。現地では全員に英語が通じるわけではなく、メキシコのようにスペイン語が主体となる地域も存在する。単に言語を話すだけでなく、現地の言語や文化的な背景を事前に理解し、歩み寄ろうとする姿勢こそが、真の国際交流と相互理解には必要不可欠である。
8. 国際交流的な異文化理解の面では、他のクルーズ客はそれぞれの休暇に来ており、クルーも仕事の一環である（それもやや特殊な接客業である）ため、国際交流が促進されるとは言えないと思う。ただ一方で、クルーズは受け身でも楽しめる空間のため、カジュアルに異文化を消費することができる機会だと感じる。

9. 今回は英語話者を前提としたクルーズだったのもあって、他の乗客との交流が少なくなりました。一方で、寄港地では習いかけのスペイン語で積極的にコミュニケーションをはかることができたと考えている。クルーズ内外でコミュニケーションの意思表示をしっかりと示すことが交流の第一歩だと実感した。
10. 今回のクルーズでは私たちと同じ世代の人はあまり見かけませんでしたが、現地の人で親と来ているであろう子供たちがクルーズ中に仲良くなって最終日に写真を撮っているのを見かけてとても素敵だなと思いました。もっと若い人たちにもクルーズが広まってこういう体験が増えたらいいなと思いました。
11. クルーズ船内では多国籍の乗客やクルーと交流する機会があり、自然と言語や文化の違いを体感しながらコミュニケーションを取る経験が得られることを実感した。今回であればアメリカ、メキシコと近隣の国々でも異なる文化圏を一度に訪れることができ、楽しみながら自然な形で国際交流・異文化理解を深められる点にクルーズの教育的意義があると思う。
12. クルーズ内のレストランで日本に親戚がいるフィリピンの女性と会話をした。拙い英語ではありながらもコミュニケーションを取ることで、かなり距離が縮まると共に暖かい気持ちになった。こうして国際交流は始まるのだと感じた。クルーズを通して外国人の中に混ざって、アクティビティを楽しむことで、日本人と海外の人それぞれの特質を体感することができた。海外に行くことで、日本を俯瞰して見るできるようになった。

クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにおける若い世代からの視点)

1. 日本発着の外国船のクルーズは増えているが、円安で魅力が増した日本を観光したい外国人乗客の利用を想定したものであり、日本人のクルーズ客は増えていない。飛鳥Ⅲが就航し、商船三井クルーズも、2隻体制になった。供給は増えているが、集客は苦戦しているようだ。その背景には、働き方改革が追い付いていないため、勤労世代・若者への広がり苦戦しているようだ。GWなどはクルーズも一つのレジャーとして認識されてきているので、休みの分散などにより、集中せずに、休みを取る仕組みづくりが求められよう。
2. クルーズは単なる観光旅行ではなく、国際交流や地域経済の活性化にも寄

与する可能性を持つ産業であると感じた。多くの国や地域を結びつける役割を持っており、文化交流の場としても重要である。今後は若い世代にもクルーズの魅力が広がることを期待したい。

3. 今回は日本人から見ても割安なクルーズだったので、インフレに苦しむアメリカ人中間層にとってはクルーズはかなり家計に優しいエンタメのはずである。人気があるのもうなずける。
4. 船内には宿泊、食事、エンターテインメント、スポーツなどさまざまな施設があり、乗客は海の上でリゾートのような時間を過ごすことができる。このような体験型の観光は、現代の観光ニーズとも合致しており、クルーズ産業は今後も成長の可能性を持つ分野である。
5. クルーズは、今回のメキシコのように、単独で行くのが厳しい地域であっても安全に楽に観光できる点が魅力的である。また、クルーズ船は、旅行に行くのが面倒だと感じている若い世代こそ乗るべきだと思う。やはり、自分で極限に安く、宿と飛行機を手配することもいいが、一度パッケージ旅行のようにクルーズ船にのることは違う旅の視点を提供してくれると感じた。
6. クルーズはプランによってはそこまで高くない値段で宿泊や食事などのサービスを受けられ、さらに寄港地での観光も楽しめるなど、若年層にとっても良い観光の手段であるように感じるが、世間的には敷居の高いものであるというイメージが未だ根強いのではと感じる。実体験の共有などを通してクルーズの良さが広まれば、クルーズ振興により繋がってゆくのではと感じる。
7. 船内は極めて平和な空間であるが、一歩外に出れば危険が伴う場所もあり、その対比が印象的であった。クルーズには、異なる文化を持つ人々が一つ屋根の下で過ごす「平和産業」としての側面がある。この平和な文化を広く普及させることが、若い世代のニーズを掘り起こし、産業としての社会的意義をより高めていくための鍵になると確信している。
8. 日本の消費者をターゲットに考えれば、アメリカ発着という今回のクルーズは、たとえその内容や寄港地が魅力的であったとしても、需要の掘り起こしは難しいと感じる（だからこそ日本での販売は行われていないのだろうが）。ただし、今回の船の航路でいえばメキシコ、アラスカなど、クルーズだからこそ気軽に行けるという面も多少はあるとは思ふ。しかしメキシコやアラスカに行こうとする旅行者が、クルーズの寄港地の一つとしてそれらを訪れるという選択肢を思い浮かべることは現状では限りなく少ないと思うので、そのような人をターゲットにした宣伝施策も重要だと思う。

9. クルーズの魅力として新たに感じたのは、治安が比較的悪いと呼ばれる観光地であれど日中のみの観光になるので比較的安全に訪れることができることだ。現地で手配するものが少ないので不安も少なく、多様な経験を積むことができる点を押し出すとさらに魅力が伝わるのかもしれない。
10. クルーズに乗る前までは飛行機の方が早く楽に移動できると思っていたが、クルーズは移動中も楽しめるのが最大の魅力だと思います。また寄港地がある場合は船内に荷物を置いておくことができるので手軽に観光をすることができるのもいいところだなと感じました。
11. クルーズの社会的意義は、単なる観光にとどまらず、人・地域・文化を繋ぐ交流の場を生み出す点にあると感じた。一方で若い世代から見ると、クルーズは「高価」「年配向け」というイメージが強く、身近な旅行手段とは言い難いと思う。私自身、今のゼミに入っていなければクルーズに乗船することはきつくなかったと感じている。今後の振興には、現在も先生方やクルーズ船会社の方々が行ってくださっているような、短期間・比較的低価格の学生向けクルーズプランでとにかく認知度を高めることが重要だと改めて感じた。他の学生と共感したことで、若い頃にクルーズの乗船経験があると、年配になった際も旅行手段として考える可能性が高まると感じているため、若い世代にとってのクルーズへのイメージを変えることが最も鍵となると思う。
12. クルーズがあることで、普段は訪れにくい港町にも訪れやすくなり、その港町は観光地として栄える。乗客はレアな観光地に行きやすくなる、その地域の魅力を知ることができる。双方にとって魅力なものだと感じた。振興については、知り合いづたいに広めていくのが良いと思った。知り合いにクルーズに行っている人がいるかいないかで、行きたいと思うかどうかはかなり変わってくると思う。ねずみこうのように、若い世代にも広げていくことが重要だと考える。

クルーズ全般への感想

1. 今回のロス発着メキシコクルーズで乗船した NCL ブリスは、想像以上に、個人的には、総合評価が高い結果となった。SHOW は、寂しかったが、バラエティのある食事、低層階でいつでも食べれるローカルフード、眺めの良いオブザベーションラウンジと、そのラウンジに、ほぼ常に、軽食、水はもちろんジュースやコーヒーまでであるのが良い。コーヒーもベリッシマよりおいしく感じた。さらなる進化系のNCLの最新船プリマクラスにも乗ってみたいと思

った。

2. 今回のクルーズ体験を通じて、クルーズ産業の規模や魅力を実感することができた。船内生活、寄港地観光、他大学生との交流のいずれも貴重な経験であり、普段の旅行とは異なる視点で世界を見る機会となった。今後も機会があれば、異なる地域のクルーズにも参加してみたいと感じた。
3. 今回、兵庫県立大のサーファー男子が参加を希望していながら、相部屋となる男子が足りずに断念した件があった。本学にも運送系に就職が決まっている学生がいたので、無理をしても同行してもらえればよかったと後悔している。SCA は費用はかかるものの、それ以上の経験ができるコンテンツであることは確実である。
4. クルーズ旅行には、時間の使い方の豊かさもある。船旅では移動そのものが体験となり、海を眺めながらゆっくりと過ごす時間や、船内のイベントを楽しむ時間など、日常生活とは異なるゆったりとした時間の流れを感じることができた。将来の観光や国際交流のあり方を考えるうえで非常に意義のある経験になった。
5. クルーズ船は改めて、旅において素晴らしいと感じた。また、一緒に乗る人によって、かなり楽しみ方も変わることがわかったので、同じ航路でもメンバーを変えるだけでかなり楽しめると思った。今後も機会があればぜひ、クルーズ船に乗船したいと思う。
6. 今回、時差や疲れによる影響のためか、LA 観光やクルーズ序盤に眠気が全然解消されないといった状況が発生していた。飛行機内での睡眠が全然とれなかったことも理由としてありそうなので、次回以降こうした状況を起こさないように対策を施したい。そして英語のリスニング力がもっとあれば楽しめた場面が少なからずあったように感じたため、英語のリスニングをもっと練習したいと感じた。
7. 海外では日本円の通用度が低く、通貨の利便性について認識を改める機会となった。また、船内での手洗いの洗濯に苦勞したことは、実体験ならではの失敗談である。総じてクルーズ生活は非常に楽しく、将来もまた乗船したいと強く感じた。今回の経験を糧に、準備の重要性を学びつつ、今後もクルーズという旅の形態に深く関わっていきたい。
8. 過去複数回クルーズアカデミーに参加したが、今回のクルーズのアメリカ発着・メキシコ寄港・多い終日航海と談話時間などを考えると、これまでの集大成とも言えるような良いクルーズ旅行だったと思う。
9. 社会人になるので当分クルーズに乗る機会はないと思うが、次はゼミ以外

の友人や家族を連れて乗ってみたいと思う。3年間とても良い経験ができたと思う。後輩たちにもぜひ積極的に参加してほしい。

10. 回答無し

11. 唯一失敗談として挙げるなら、学生メンバーの中でアメリカドルを両替してきた人が少なく、特にメキシコ観光の際に現金(ペソ)がぎりぎりでありあまり自由に買い物などができなかったこと。クルーズ全体の感想として、これまで飛行機やホテルを利用する海外旅行の経験は多かったが、今回のクルーズを通じて、移動・宿泊・食事・娯楽が一体化したクルーズ旅行の快適さと効率性を強く実感した。学生の間に行けるクルーズは今回が最後になってしまったが、私が行っている様子を見て親や友人など周囲でクルーズに興味を示してくれる人も増えた。観光だけでなく、移動時間そのものまで楽しめる点はクルーズならではの魅力であり、今後の旅行手段の一つとして積極的に検討したいと感じている。
12. 皆様、ありがとうございました。すべての経験が初めてで刺激的で、かけがえのない経験になりました。同時に、このようなクルーズに関わる仕事もあるのだと新たな気づきもたくさんありました。県大生の後輩はクルーズに参加したことがないと思うので、おすすめしようと思います。ありがとうございました。